

保育でのメディア活用を網羅した情報処理テキストの特徴

堀田博史（園田学園女子大学） 森田健宏（関西外国語大学短期大学部）
松河秀哉・奥林泰一郎（大阪大学）中村 恵（奈良佐保短期大学） 深見俊崇（島根大学）

1. はじめに

大学の教育課程において、1年次に開講される情報処理科目は、ほぼ全員の学生が履修し、Office系ソフトウェア操作法の習得を目標としているものがほとんどである。それらの操作法は、在学時のレポートや卒業論文の作成で必要であり、就職後にも活用できる。

全国約450の保育者養成大学・短大では、幼稚園教諭免許の取得時に「情報機器の操作」の履修を必要とし、保育者養成課程以外の学部同様に、Office系ソフトウェア操作法の習得を目標とするものが多い。少数の教員が複数学部に渡って情報処理科目を担当することもあり、学部ごとで学習内容を変えることは難しく、すべての学部に通じて必要となるOffice系ソフトウェアの操作法の習得があげられると考える。

その中で、情報処理科目で保育内容を扱ったいくつかのテキストが見られる。特に阿部ら[1]は、保育事例でワープロ・表計算・プレゼンテーション・ホームページ作成技術を習得する構成としている。しかし、Office系ソフトウェアで保育事例を取り扱うだけではなく、デジタルカメラの活用や放送番組の視聴など保育とメディアに関する学習内容を網羅したテキストはほとんど見当たらない。

そこで堀田ら[2]は、上記の要件を満たすテキストの開発を試みた。

2. テキストの特徴

情報処理テキストの学習内容は、Office系ソフトウェアの操作法と保育とメディアに関するもので構成

表1 情報処理テキストの学習内容

保育とメディアに関する学習内容
幼稚園・保育所でのメディア活用とは
デジタルカメラの活用
教育番組の活用例とそのイメージ化
教育番組の内容理解
文字や数への興味・関心も高める活動
保育でのメディア活用時の環境構成
卒園アルバムの作成～Windows Liveムービーメーカーの活用～
幼児とプログラミング～スクイークEtoysの活用～
絵本づくり～ビッケのつくろえほんの活用～
Office系ソフトウェアの操作法に関する学習内容
フォルダ管理とファイル保存
インターネット検索
電子メールの送受信
キーボードトレーニング
ホームページで情報発信
情報倫理～保育者に求められる情報モラル～
園だよりの作成～Wordの基本操作と行事表の作成～
保育案の作成～Wordによる複雑な操作をマスター～
実習日誌の書き方～Wordの作表技術を高める～
名簿の作成～Excelの基本操作と名簿表の作成～
グラフの作成～Excelによる身長・体重の推移を視覚化～
宛名ラベルの作成～Excelのラベル作成ウィザードを使いこなす～
成長記録表の作成～WordとExcelの連携技術をマスター～
ポスターの作成～PowerPointの基本操作と視覚的な支援教材の作成～

(表1)し、以下の3つの教育的配慮を組み入れている。

2.1. 学習内容の系統と順次性

1つは、学習内容を半期15回分に収めるのではなく、保育でのメディア活用を含めて必要な23の学習内容で構成している。それぞれは相互に関連性を持ち得ているが、15回終了時の到達目標をどのように定めるかで、23ある学習内容の順番を変化させる必要がある。そこで、到達目標別に学習内容の系統を示すモデルをテキスト内で提示した。

2.2. 知識獲得近接学習者のグループ化

2つめは、23の学習内容それぞれを90分で課題解決するモジュール化を採用した。また評価観点だけではなく、課題解決時に取得する得点も明記している。これにより、学習者同士の進捗状況が互いに認識でき、学習者間でグループ化が起こり、相互援助が生まれることで、学習意欲の継続にも繋がる[3]と考える。

2.3. 自己学習力育成への環境整備

3つめは、学習内容（課題・副教材・素材）のすべてを保育と関連したものにしており、ビデオや写真などの素材（60点）はCD-ROMに収めた。これらは、学習活動時に保育を常にイメージすることで、学習を持続・遂行する能力の支援が可能となる。

また、Office系ソフトウェア以外は、特化したものを使用せず、フリーソフトウェアを使用している。授業だけではなく、家庭などでの学習を可能とすることで、学びたい時に学べる環境を実現した。

今後、これらの教育的配慮の組み入れが、学習者にとってどの程度好意的に受け止められているか、また学習効果が見られたかを、保育者養成校でのテキスト利用により検証していく。

参考文献

- [1] 阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ、保育者のためのパソコン講座、萌文書林、2006
- [2] 堀田博史・深見俊崇・松河秀哉・松山由美子・森田健宏・中村恵・奥林泰一郎・佐藤朝美・吉崎弘一、保育でのメディア活用に注目した情報処理テキスト開発の試み、日本教育工学会第28回全国大会講演論文集、p.973-974、2012
- [3] Vygotsky, L.S., Mind in Society: The Development of Higher Psychological Processes, Harvard University Press. (Re-published 1978), pp.84-91, 1930

保育でのメディア活用を網羅した情報処理テキストの特徴

堀田博史(園田学園女子大学)、森田健宏(関西外国語大学短期大学部)、松河秀哉・奥村泰一郎(大阪大学)
中村恵(奈良佐保短期大学)、深見俊崇(鳥根大学)

開発手順

手順1

全米乳幼児教育協会(NAEYC)が作成している、保育にパソコンを活用する時の指針“Technology and Young Children—Ages 3 through 8”を参考に、日本版の保育におけるメディア活用ガイドラインを作成(堀田ら、2011a)。

手順2

全国の保育者養成454の大学・短大から、保育とメディアに関するシラバス提供を得た(回収率は61.0%)。シラバスの内容から、保育とメディアに関するものを抽出して、ガイドラインの内容と合わせたカリキュラムを開発(堀田ら、2011b)。

手順3

提供を得たシラバスで採用頻度の高いOffice系の操作方法、特にWordとExcelを取り上げ、題材を保育内容に置き換えテキスト化。



テキスト開発の概念図

テキストの特徴

学習内容の系統と順次性

半期15回分に収めるのではなく、保育でのメディア活用を含めて必要な23の学習内容で構成。到達目標別に学習内容の系統を示すモデルを提示。

知識獲得近接学習者のグループ化

学習内容それぞれを90分で課題解決できるモジュール化して、課題解決時に取得できる得点も明記。

これにより、学習者同士の進捗状況が互いに認識、学習者間でグループ化が起こり、相互援助が生まれることで、学習意欲の継続にも繋がる。

自己学習力育成への環境整備

学習内容のすべてを保育と関連させ、ビデオや写真などの素材(60点)はCD-ROMに収めた。学習活動時に保育を常にイメージすることで、学習を持続・遂行する能力の支援が可能。

情報処理テキストの学習内容

保育とメディアに関する学習内容

幼稚園・保育所でのメディア活用とは
デジタルカメラの活用
教育番組の活用例とそのイメージ化
教育番組の内容理解
文字や数への興味・関心も高める活動
保育でのメディア活用時の環境構成
卒園アルバムの作成～Windows Liveムービーメーカーの活用～
幼児とプログラミング～スクイークEtoysの活用～
絵本づくり～ピッケのつくろえほんの活用～

Office系ソフトウェアの操作方法に関する学習内容

フォルダ管理とファイル保存
インターネット検索
電子メールの送受信
キーボードトレーニング
ホームページで情報発信
情報倫理～保育者に求められる情報モラル～
園だよりの作成～Wordの基本操作と行事表の作成～
保育案の作成～Wordによる複雑な操作をマスター～
実習日誌の書き方～Wordの作表技術を高める～
名簿の作成～Excelの基本操作と名簿表の作成～
グラフの作成～Excelによる身長・体重の推移を視覚化～
宛名ラベルの作成～Excelのラベル作成ウィザードを使いこなす～
成長記録表の作成～WordとExcelの連携技術をマスター～
ポスターの作成～PowerPointの基本操作と視覚的な支援教材の作成～